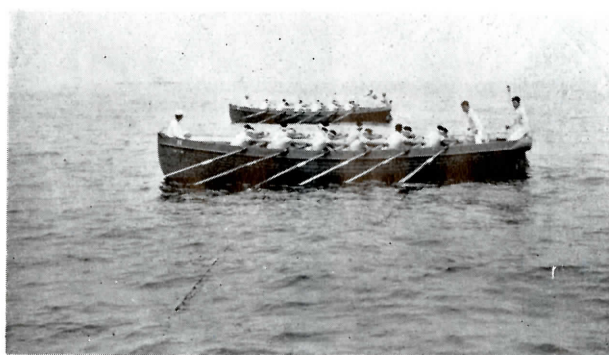


第 四 回

全日本カッター競技大会



(日 時) 昭和 3 5 年 6 月 5 日 (日)

(会 場) 横 須 賀 市 馬 堀 海 岸

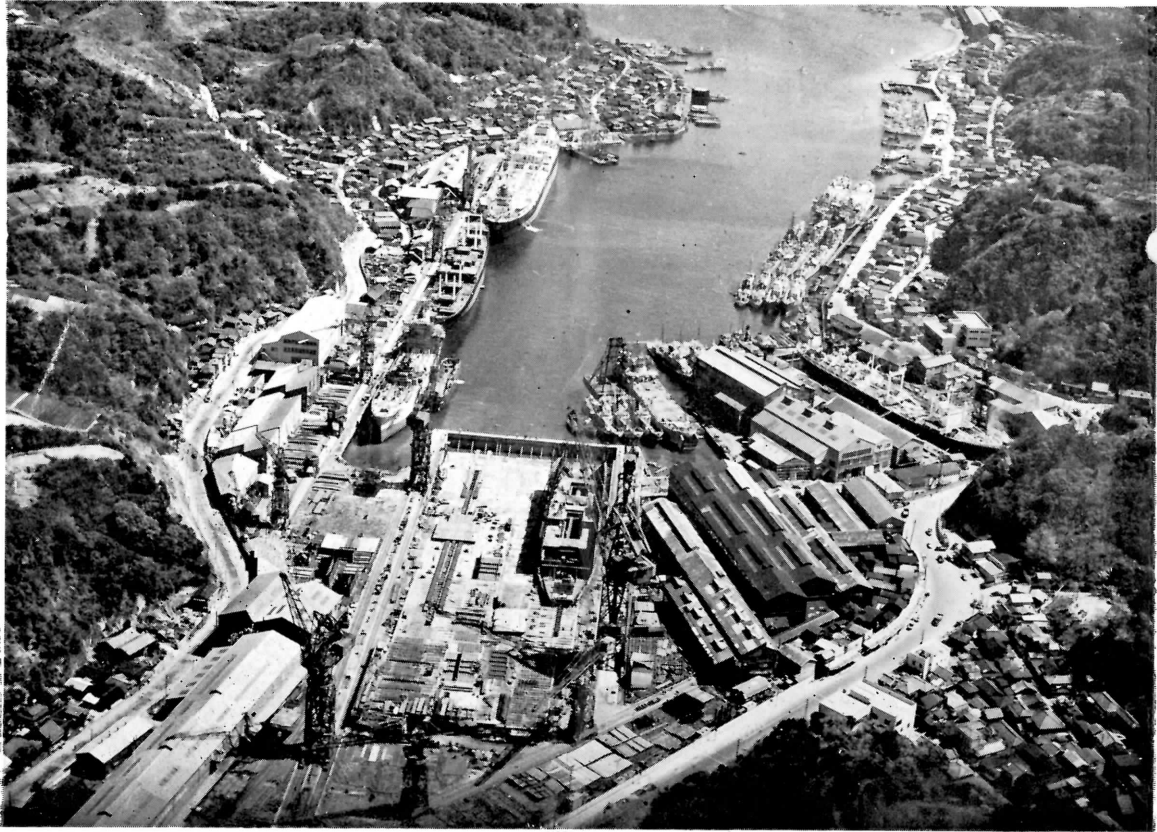
(主 催) 日 本 カ ッ タ ー 連 盟

(後 援) 横 須 賀 市

毎 日 新 聞 社

ス ポ ー ツ ・ ニ ッ ポ ン 社

各種艦船並修理
陸船用諸機械製作
鉄骨橋梁・土木建築工事



浦賀船渠
株式会社

浦賀造船所

横須賀市浦賀町4の7
電話(代表)浦賀80番180番
横須賀2355～7番

目 次

目 次	1
挨拶	2
大会役員及び大会委員	3
競技場附近略図	4
各校クルー	5~14
審判規則	15
レースの手引	16
記録表	18

船舶・艦艇の新造・修繕
日立B&Wディーゼル機関
化学機械・鉄鋼構造物



日立造船株式会社

取締役社長 松原 興三 松

本社 大阪・中之島2電(23) 8051~9・8201~9
東京支社 東京・丸の内2(郵船ビル) 電(281) 5231~9



ヨ コ ス カ

お買物は近くて便利な

さいか屋

電話(代表) 390

第四回全日本カッター競技大会を迎えて

防衛大学校長 榎 智 雄

全日本カッター競技大会は、回を重ねて今年は、その第四回を三浦半島観音崎附近にて、開催されることとなりました。防衛大学が、この大会の幹事校になりましたことは、光栄の至りであります。ただ、競漕設備及び接待について、出来るだけの意は払いましたが、遠来の選手諸氏の満足を得られるか否かを懸念しております。

参加の各校は、目的制度において相違のあることは免れませんが、すべて海洋に関係ある学校でありまして、海洋は、いわば、将来の任務の職域であります。毎年初夏の好季節を選び、関東関西のいずれにか、交互に参会して、日頃鍛練の腕を競うことは、ひとり志を海に寄せる者の意気を示すばかりではなく、互にその精進を励み、かつ、祝することなのであります。今日ここに力を尽し、ともに大気大洋大地を愛する者が、更にはるかに行かんとする僚友と心を結ぶことは、ただに、自らのためであるばかりではなく、平和を愛する同胞民族の発展のためにも、喜んでよいのではないかと信じます。参加選手諸氏の御健闘を祈ります。



- ・船舶造修
- ・三井B&Wディーゼル機関
- ・化学工業用機械
- ・産業機械

三井造船株式会社

本社 東京都中央区日本橋室町二ノ一 電話(241) 2101~9
五野造船所 岡山県玉野市五一〇 電話 玉野 3111~9

大会役員

会長	防衛大学校校長	榎	智	雄
副会長	防衛大学校幹事	岡	本	功
役員	海上保安大学校	内	海	靖
	鹿児島大学	源	川	朝
	神戸商船大学	杉	浦	昭
	東京商船大学	中	島	保
	東京水産大学	佐	木	幸
	長崎大学	麻	生	幸
	日本大学	添	田	秀
	農林省水産講習所	橋	本	市
	三重県立大学	細	川	鉄
	防衛大学校	平	山	茂
	防衛大学校	平	野	弥
審判長				

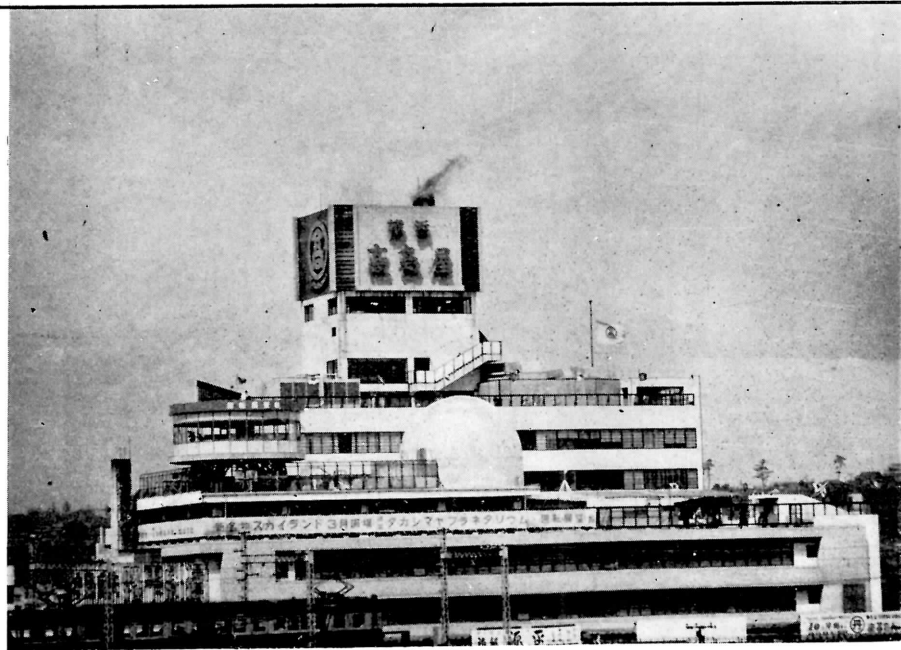
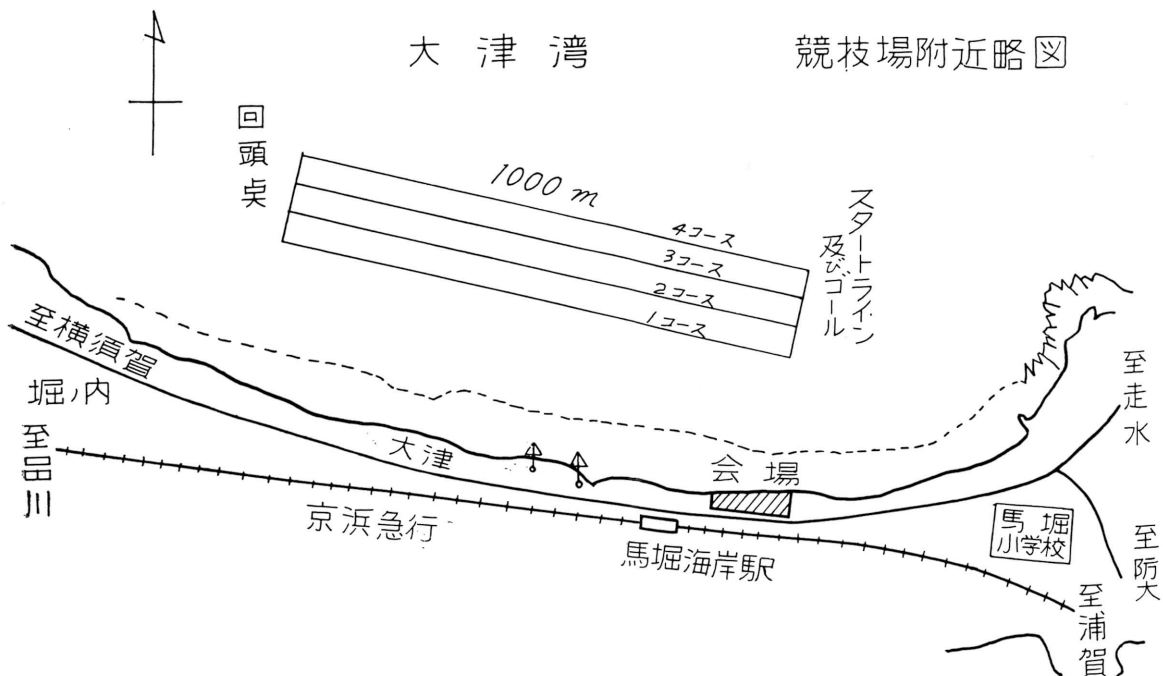
大会委員

委員長	木村欣浩				
総務	森原	庶務	竹重	会場	清水
		接待	江戸、辻川	音楽隊	千葉
渉外	武本	広報	小竹	調査	永田、桜田
審判	長谷川	出版決勝	西沢、南	記録	永田
運営	佐野	進行	森原	舟艇器材	桜田
		警戒保安	藤田	通信	古石、和田
管理	江戸	宿泊	末永、朝田	給養	佐野
		車輜	阿部	医務	山口

祝

第4回全日本カッター競技大会

横須賀市友好団体協議会



回転展望台とプラネタリウムのある
横浜タカシマヤ

スカイランド

ヨコハマでしゃれたお買物



横浜 高島屋



ヨコハマ駅西口電話代表(44)1551金曜定休

海 上 保 安 大 学 校

(◎主将 ○マネージャー)

氏 名	身長	体重	学年・科	出身校(県)
願 問 氏 名				
艇指揮 ◎伊藤 靖之	165	52	N3	土浦一高(茨城)
艇長 ○平藤 二実	160	55	N3	国泰寺高(広島)
1 赤坂 史朗	164	60	2	広島高(広島)
2 本多 悦朗	168	59	N3	仙田二高(宮城)
3 磯迫 周作	170	63	2	広島高(広島)
4 石原 正久	169	61	2	倉吉東商(鳥取)
5 石谷 恒夫	169	65	W3	鳥取西高(鳥取)
6 田所 征彦	164	64	N3	高岡高(富山)
7 佐々木 忠志	173	67	2	築館高(宮城)
8 管野 端夫	172	65	2	仙台二高(宮城)
9 柳田 幸三	176	63	N3	栃木高(栃木)
10 波藤 錠一	171	66	2	大牟田高(福岡)
11 大鍋 寿一	166	60	E3	都立小山台高(東京)
12 武井 立一	169	66	2	松本深志高(長野)
補 谷 口 豊	168	63	N3	大手前高(香川)
補 織 田 賢二	176	63	1	尾道北高(広島)
補 陶 山 高志	176	70	1	臼杵高(大分)
補 則 包 辰男	168	71	1	西京高(京都)

高 速 艇 ・ ヨ ッ ト ・ カ ッ タ ー

設 計 建 造 修 理

墨 田 川 造 船 株 式 会 社

取締役社長 石 渡 常 次

東 京 都 墨 田 区 寺 島 町 3 — 1 0

電 話 東 京 6 1 1 局 7 1 9 5 番 (代表)

レ ー ス ボ ー ト と オ ー ル

専 門 製 作

株 式
会 社

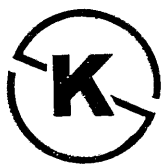
デ ル タ 造 船 所

荒 川 区 尾 久 町 8 丁 目 2 7 8 8 番 地

電 話 (891) 8 0 4 4 ・ 7 0 1 8 番

鹿 児 島 大 学

氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
顧問 源 河 朝 之				
艇指揮 三 好 裕 二	164	55	製2	高 津 高(大 阪)
艇長 ◎天 野 信 文	160	54	漁3	米 子 西 高(鳥 取)
1 藤 原 行 成	169	58	漁2	大 牟 田 南 高(福 岡)
2 持 永 満 治	162	52	漁2	筑 紫 ケ 丘 高(福 岡)
3 ○飯 野 照 輔	169	58	漁2	城 北 高(東 京)
4 吉 永 寛 次	162	52	漁2	佐 世 保 北 高(長 崎)
5 都 築 啓 啓	169	74	漁3	山 口 部 高(山 口)
6 今 吉 源 一	179	73	漁3	築 上 中 部 高(福 岡)
7 小 野 寺 徹	180	75	漁3	杉 並 高(東 京)
8 市 原 敏 彦	168	65	漁2	撫 養 高(高 知)
9 森 田 英 機	171	67	製2	宗 像 高(福 岡)
10 山 野 延 偉	168	62	製2	鞍 手 高(福 岡)
11 開 田 敏 夫	164	56	漁2	大 牟 田 北 高(福 岡)
12 梶 村 尚 志	178	60	漁3	浦 和 高(東 京)
補 前 田 純 也	165	58.5	漁2	追 手 前 高(高 知)
補 棚 橋 恒	172	63	漁2	本 巢 高(岐 阜)
補 松 井 日出雄	162	55.5	漁2	岩 国 高(山 口)
補 狩 谷 桂 介	169	58	漁1	操 山 高(岡 山)
補 古 賀 千 雄	180	67	漁1	広 大 附 属 高(広 島)



株式会社 吳造船所

取締役社長 住 田 正 一

東 京 本 社 東京都千代田区丸ノ内一丁目一番地 第一鉄鋼ビル内
電 話 東 京 (201) 0 3 8 1 (代 表)

神 戸 事 務 所 神戸市生田区浪花町六四番地 三ノ宮電々ビル内
電 話 神 戸 (3) 3 7 7 6 - 8

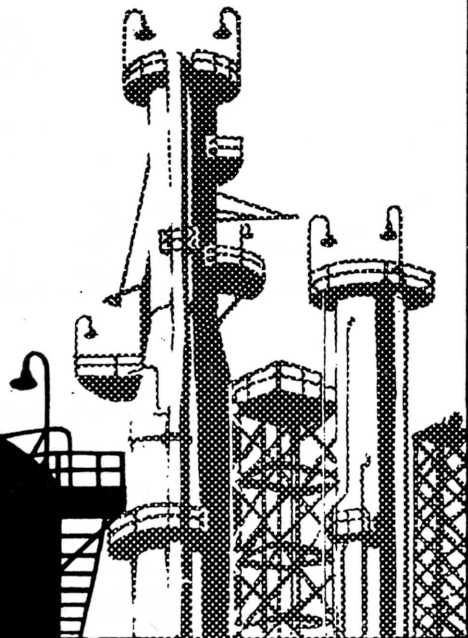
吳 造 船 所 吳 市 昭 和 通 二 丁 目 一 番 地
電 話 吳 (2) 5 1 7 1 (代表)

神 戸 商 船 大 学

	氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
顧問	杉 浦 昭 典				高 等 商 船(愛 知)
艇指揮	◎武 内 周 二	168	62	N4	板 橋 高(東 京)
長	田 中 俊	167	63	N3	明 石 高(兵 庫)
1	石 田 寿	167	63	N2	小 倉 高(静 岡)
2	富 山 栄 一	167	64	E3	卷 高(新 潟)
3	国 崎 丸 肇	164	54.5	E3	金 光 園(岡 山)
4	德 丸 順	169	63	N3	長 田 高(兵 庫)
5	高 野 三 郎	174	65	E3	両 国 高(東 京)
6	高 祖 健 一	173	62	N3	佐 賀 高(佐 賀)
7	斎 藤 泰	174	65	N3	姫 路 西 高(兵 庫)
8	森 本 靖 之	173	68	N3	高 津 高(大 阪)
9	田 納 靖 男	169	64	E2	長 田 高(兵 庫)
10	川 村 卓 男	169	63	N3	福 知 山 高(京 都)
11	横 山 恒 正	169	65	E4	仙 台 高(宮 城)
12	佐 野 正 敏	168	64	E3	高 松 高(香 川)
補	阿 部 勝 一	175	64	N2	高 学 附(兵 庫)
補	津 高 宏 郎	170	59.5	N2	学 大 附(香 川)
補	山 下 恒 彦	166	65	E2	丸 尾 高(香 川)
補	田 中 宏	175	55	N2	鳴 尾 高(兵 庫)
補	能 勢 正 純	173	65	N2	小 倉 高(福 岡)
補	○柴 山 元 義			N2	常 滑 高(愛 知)

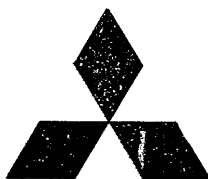


出光興産 / 石油 / 輸入・精製・販売



東 京 商 船 大 学

	氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
顧問	中 島 保 司				
艇指揮	◎峰 本 健 二	168	63	E4	広 島 商 船 高(広 島)
艇 長	生 田 綽 克	159	58	E3	熊 本 高(熊 本)
1	高 橋 正 夫	170	63	E3	小 石 川 高(東 京)
2	高 橋 靖 信	166	65	N3	仙 台 二 高(宮 城)
3	若 木 純 一 郎	166	64	E3	宇 和 島 東 高(愛 媛)
4	近 藤 行 夫	171	63	E3	都 立 八 潮 高(東 京)
5	塩 田 重 須	172	61	N3	高 松 高(香 川)
6	小 坂 祥	177	67	E3	神 戸 高(兵 庫)
7	星 野 敏	169	65	E3	東 大 附 属 高(東 京)
8	赤 岡 隆 夫	172	62	N3	韭 崎 高(山 梨)
9	飯 田 穰	170	60	E3	厚 木 高(神 奈 川)
10	石 黒 基 一 郎	170	66	E3	国 府 高(愛 知)
11	中 山 清	168	59	N3	東 大 附 属 高(東 京)
12	庄 司 洸 一 郎	174	61	N3	神 戸 高(兵 庫)
補	斎 藤 礼 文	173	63	E4	千 歳 高(東 京)
補	森 本 宏 二	172	61	E4	日 本 三 育 学 院 高(兵 庫)
補	鳥 羽 正 義	172	62	E4	佐 原 第 一 高(千 葉)
補	大 塚 高 久	168	60	N2	修 猷 館 高(福 岡)
補	○吉 村 彰	160	58	E4	徳 山 高(山 口)



新三菱重工業株式会社

本 社 東 京 都 千 代 田 区 丸 ノ 内 2 ノ 10 電 話 代 表 東 京 (211) 3 4 1 1

大 阪 営 業 所 大 阪 市 北 区 梅 田 2 第 一 生 命 ビ ル 5 階 電 話 代 表 大 阪 (36) 0 8 7 1

東京水産大学

顧問 艇指揮 艇長	氏名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
1	◎田中 幸芳 康克	171	65	漁業3	水産講習所(広島)
2	○松山 隆治 高(三)	169	57	漁業3	津伊都高(和歌山)
3	守田 隆二 高(熊)	165	59	漁業2	熊本高(熊本)
4	新美 佑二 高(大)	167	62	漁業2	高槻高(大阪)
5	藪野 光宏 高(大)	172	65	漁業2	富田林高(大阪)
6	黒田 一紀 高(大)	169	60	増殖2	三国丘高(大阪)
7	杉原 伸夫 高(広)	179	73	漁業2	広島大附属高(広島)
8	川崎 達之 高(岡)	170	65	漁業2	相生高(岡山)
9	山前 介厚 高(福)	166	65	漁業2	小倉高(福岡)
10	只野 康宏 高(愛)	178	65	漁業2	小国府高(愛知)
11	上田 進昌 高(千)	174	65	漁業2	溝陵高(長野)
12	林 昌宏 高(熊)	169.5	63	漁業2	千代高(千葉)
12	浜 国三 高(新)	168.5	58	増殖2	八代高(熊本)
補	鷺 雄実 高(新)	168	62	増殖2	新湊高(新潟)
補	専 実 高(石)	153	53	漁業2	白田高(石川)
	木 勲	165	63	漁業2	向陽高(愛知)

N.Y.K. LINE

WORLD-WIDE SERVICE



日本郵船

長 崎 大 学

	氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
顧問	麻生 幸則	161	55	漁3	神 戸 商 船 大(大 分)
艇指揮	松尾 健泰	161	54	漁3	中 央 高(福 岡)
艇長	金丸 治生	170	59	漁3	恒 富 高(宮 崎)
1	岩下 佳一	168	64	漁3	亀 岡 高(京 都)
2	木戸 隆忠	169	60	漁3	大 牟 田 北 高(福 岡)
3	門柳 雄	178	68	漁2	四 日 市 高(大 分)
4	原 辰二郎	177	63	漁2	下 松 工 高(山 口)
5	中山 護	168	64	製3	操 山 高(阿 山)
6	島川 智敬	171	68	漁3	高 田 高(大 分)
7	江川 進	172	77	漁3	長 崎 西 高(長 崎)
8	析本 芳男	163	68	漁3	東 築 谷 高(福 岡)
9	西ノ首 英一	162	68	漁3	竜 谷 高(佐 賀)
10	福山 彦	163	56	漁3	福 岡 吉 高(熊 本)
11	◎佐々木 誠治	175	64	漁3	福 高 瀬 高(大 阪)
12	○井林 修身	157	57	増3	下 関 西 高(山 口)
補	古賀 長一郎	168	68	漁2	宇 部 高(山 口)
補	井上 正六	165	61	漁2	基 町 高(山 口)
補	坪郷 悠一郎	166	64	製3	筑 紫 ケ 丘 高(福 岡)
補	石丸 成一	165	58	漁3	中 津 北 高(大 分)
補	松坂 一	161	54	漁2	長 崎 西 高(長 崎)

船 舶 建 造 修 理

株 式 会 社 花 崎 造 船 所

取締役社長 花 崎 定 一

本社・工場 神奈川県横須賀市日の出町3丁目19番地

電 話 横 須 賀 1 9 4 8 ・ 2 4 7 2

あけぼの印

ハム・ソーセージ各種缶詰

日 魯 漁 業

日 本 大 学

氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
顧問 添田 秀男				日本大学
艇指揮 佐藤 文也	170.3	65	漁撈3	古川 高(宮城)
艇長 田中 夏積	170.5	63	漁撈3	小金井 高(東京)
1 飯岡 正一	163	62	漁撈3	北野 高(東京)
2 福田 功明	165	73	漁撈3	城北 高(東京)
3 高木 靖男	163	63	漁撈3	沼津 東高(静岡)
4 高木 正直	173.2	72	製造3	佐原 一高(千葉)
5 福島 達士	170	68	製造2	八戸 水高(青森)
6 永村 武素	162.5	59	製造3	熊本 高(熊本)
7 羽田 七郎	172	60	製造3	丸子 実高(長野)
8 山本 隆夫	177	75	漁撈3	木曾 西高(長野)
9 刈屋 駿二	171.2	68	製造3	宮古 水高(岩手)
10 ◎砂山 繁	171	70	製造3	江南 高(北海道)
11 椎 賢二	170.5	68	製造1	阿津 水高(新潟)
12 ○松岡 玳良	173.5	81	増殖3	焼津 水高(静岡)
補 横地 竜男	168	58	製造1	日大三 高(東京)
補 蜷川 親明	174.1	75	増殖3	日大三 高(東京)



島津製作所特約店

松 見 商 会

東京都千代田区神田鍛冶町3~3

TEL (251) 8966・2878・4029・5243

農 林 省 水 産 講 習 所

	氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
顧問	橋 本 市 雄				水 産 講 習 所
艇指揮	◎真 島 正 博	167	63	漁業3	鶴 岡 南 高(山 形)
艇 長	千 葉 仁 宏	166	58	製造3	下 関 西 高(山 口)
1	水 寺 村 滋 忍	168	65	製造2	山 田 高(福 岡)
2	宮 野 靖 治	169	66	漁業3	泉 ケ 丘 高(石 川)
3	安 宅 勝 彦	178	64	製造3	久 留 米 大 附 高(福 岡)
4	藤 田 彪 彦	165	70	機関3	串 本 高(和 歌 山)
5	小久保 哲 夫	168	65	製造3	修 猷 館 高(福 岡)
6	前 田 克 昭	174	74	漁業3	川 越 高(埼 玉)
7	井 村 隆 勝	173	76	製造3	山 鹿 高(熊 本)
8	千 佐 綿 一 弘	175	76	機関2	京 都 高(福 岡)
9	青 柳 宝 道	168	67	製造3	佐 賀 高(佐 賀)
10	本 田 弘 法	172	75	漁業3	徳 山 高(山 口)
11	秋 吉 洋 治	172	62	機関2	修 猷 館 高(福 岡)
12	片 岡 一 武 博	170	62	漁業2	山 鹿 高(熊 本)
補 補	坂 本 博 泰	164	52	漁業2	山 東 築 高(福 岡)
		165	57	製造3	柳 井 高(山 口)
		171	68	漁業4	山 根 高(熊 本)
		165	62	漁業4	根 室 高(北 海 道)



創業 50 周年
資本金 300 億

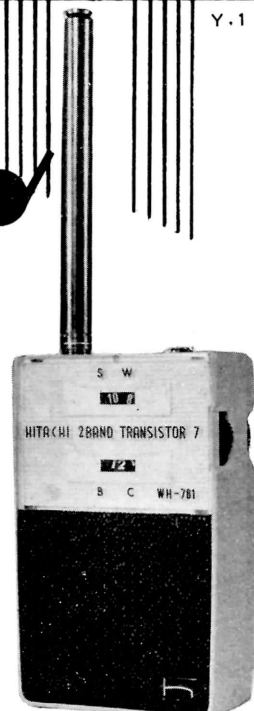
日立製作所

Y.1

日立
トランジスタ
ラジオ

蒼空のように
澄んだ音色で
世界の放送が
楽しめる

7 7 石 2 バンドオールウェーブ
“ ベティ ” W H 1 7 6 1
現 金 正 価 九、五〇〇円
月 賦 正 価 一〇、四〇〇円



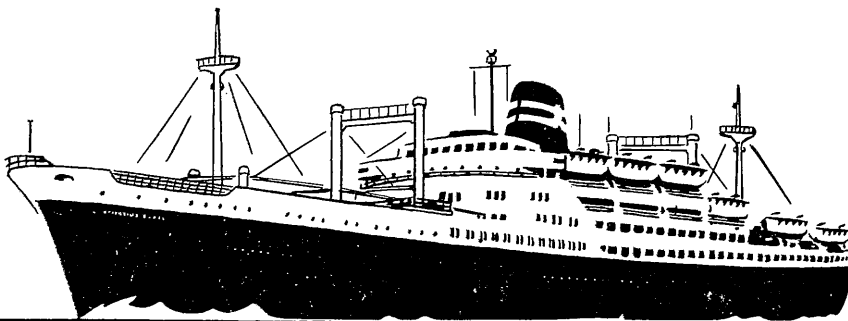
三 重 県 立 大 学

	氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
顧問	細川鉄雄				
艇指揮	山田万樹	171	56	2	松 阪 高(三重)
艇長	山越紘一	162	54	2	松 蔭 高(愛知)
1	垣内正久	166	60	2	四 日 市 高(三重)
2	神宮正信	160	52	2	津 高(三重)
3	鈴木雅	166	58	2	神 戸 高(三重)
4	黒石昇	167	60	2	津 高(三重)
5	石倉勇	172	63	漁3	宇 治 山 田 高(三重)
6	水谷宏	167	60	2	四 日 市 高(三重)
7	大岡貞一郎	167	61	2	小 豆 島 高(香川)
8	井上義也	171	62.5	2	四 日 市 高(三重)
9	道瀬	170	65	2	松 阪 高(三重)
10	洲崎守夫	180	81	2	津 高(三重)
11	高橋美雄	170	60	2	東 海 高(愛知)
12	村林広治	171	61.5	2	松 阪 高(三重)
補	杉本卓郎	163	55	2	神 戸 高(三重)
補	○田中守	172	65	2	桜 ケ 丘 高(石川)
補	◎吉村寿洋	165	60	2	松 阪 高(三重)
補	杉山十六生	167	57	漁4	西 宮 高(兵庫)
		166	65	漁4	津 工 業 高(三重)

O.S.K.



Line



大阪商船

防 衛 大 学 校

	氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
顧問	平 山 茂 男				海 軍 兵 学 校(千 葉)
艇指揮	◎田 口 三 善	162	60	電 4	五 島 高(長 崎)
艇 長	樋 口 隆 保	166	60	機 4	佐 賀 高(佐 賀)
1	石 橋 讓	165	65	電 4	佐 賀 高(佐 賀)
2	中 野 凱 夫	168	66	航 4	藤 島 高(福 井)
3	高 群 義 康	173	65	機 3	済 々 巖 高(熊 本)
4	前 野 善 則	175	66	航 2	水 戸 一 高(茨 城)
5	栗 原 良 二	172	68	電 4	熊 谷 一 高(埼 玉)
6	佐々木 雄 介	174	70	電 2	仙 台 一 高(宮 城)
7	河 野 光 雄	177	70	航 2	城 南 高(德 島)
8	向 井 正 興	170	70	機 2	峡 北 高(山 梨)
9	条 晴 郎	173	73	機 4	名 取 高(宮 城)
10	出 水 克 明	175	75	化 2	加 治 木 高(鹿 児 島)
11	斎 藤 勇 二	170	66	航 3	北 園 高(東 京)
12	寺 本 典 也	173	67	電 2	八 代 高(熊 本)
補	宮 越 祥 輔	166	62	化 4	仙 台 二 高(宮 城)
補	児 子 成 美	160	56	機 3	旭 陽 高(岡 山)
補	永 楽 誠	171	71	機 3	泉 陽 高(大 阪)
補	鹿 野 三 千 男	164	70	機 2	若 柳 高(宮 城)
補	橋 本 昌 德	174	68	電 2	布 施 高(大 阪)
補	中 村 忠 司	175	65	航 2	日 大 一 高(東 京)
補	○小 島 誠 一	166	63	応物4	加 古 川 東 高(兵 庫)

MITSUI LINE

三 井 船 舶 株 式 會 社

代表取締役社長 一 井 保 造

本 店 東京都中央区日本橋室町2丁目1の1

支 店 小樽・横浜・名古屋・大阪・神戸・門司・若松・ロンドン

出張所 室 蘭・三 池

事務所 釧路・東京港・名古屋築港・大阪築港・玉野・八幡・口之津

駐在員 川崎・伏木・ニューヨーク・サンフランシスコ

ヴァンクーヴァー・ボンベイ・カルカタ・ラングーン

バンコック・シンガポール・香港・台北

審 判 規 則

1. 使用艇、オール及びコースはレースの都度抽選により決定する。
2. スタート
 1. 各艇は指定の時刻コース順に従いスタートラインに整列する。
 2. 5分前をマイクにより通達、スタートブイにつく、ブイに着き用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する。
 3. スタート用意：号笛短声連続、手旗2原画、号笛長一声手旗頭上より一回転する。
 4. スタート：頭上の手旗を垂直に振下すと同時に号砲を打つ。
3. 審判長、審判員がスタートを不完全と認めた時は直ちにレースを中止せしめ、スタートラインに呼び返す。
諸信号、審判艇コース横断
4. スタートに於ける号令前の飛出し、及び艇の事故によるスタートの遅速等は2回で失格である。
5. 回頭は左回頭（反時計回り）とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし、他の回頭旗を回頭した

- 場合、及び回頭旗に艇又はオールの一部でも接触した場合は失格である。
6. ゴール
艇首が規定のゴールラインに入つた順序をもって順位とし、順序は審判員が判定する。
 7. 同着の場合は追込艇の勝とする。
 8. ゴールイン時のスタートブイタッチは失格としない。
 9. 各艇は自己のコースを航行し、もしこれを誤って他の艇に接触その他不正行為があったと審判員の認めた時は失格とする。
 10. レース中のコースに於ける障害、自艇の故障等は他艇の不正な接触を除く他各艇自らこれを忍ぶべきものとする。しかし審判長の判断によりこの限りでない時もある。
 11. レースに関する異議申立等は艇長がこれを行い、審判長が裁決する。
 12. オールは予備2本を積み自由に使用してもよい。
 13. 補欠は1レース終了後自由に交替できる。
 14. オールは流したままゴールインしても差支えない。



船舶艦艇新造修理
横浜MANディーゼル機関
鉄 構 製 品

三菱横浜 G-E ボイラー
三菱横浜可変ピッチプロペラ
産 業 機 械

取締役社長 櫻 井 俊 記

三菱日本重工業株式会社

本 社 東京都千代田区丸ノ内2の4
大阪営業所 大阪市北区梅田町47新阪神ビル4階

電話 東京(281) 2351 (大代表)
電話 大阪(36) 7531 (代)

レースの手引

本大会に使用される艇は外板鋸張で長さ9m12人漕のカッターである。カッターとは一般の救命艇（船、艇同型）と異り、艇を切落した形になっているのでこの称がある。マストを立て、帆走することも出来るようになっている。

艇を操作しているものをクルーと称し、その名称は右舷（艇尾より艇首に向かって右側）の最も艇首に近い者が1番、左舷の最も艇首に近い者が2番（この2人をBowmenという）、以下右左舷交互に3, 4, ……11, 12番までである。11, 12番を特に Strokemen と呼び櫓漕の場合この2人が基準となる。艇尾で舵を握っているのが艇長であり、艇の指揮号令を掌っているのが艇指揮である。即ち艇指揮がその艇の全ての指揮を司る。

スタートは各艇の艇首が一直線上に並んだとき、手旗、号笛、号砲の信号を以て行う。レース距離は往復2000mであって、スタートラインより1000mの所に、各コース毎に回頭旗が立てられており、各艇はこれを左回り（反時計回り）に回頭して帰ってくる。即ちスタートラインがそのままゴールラインとなる訳である。ゴールは艇首がゴールラインに達した時とする。ピッチ即ち1分間に漕ぐ回数は大体30前後であり、レース所要時間は10分余である。即ち5~6ノット（ノット）の速度となる。参考迄に小型機船の速度は大体6~12ノットである。

カッターレースは10分余の間、一瞬といえども息を抜くことを許さず、しかもクルー全員の呼吸が完全に一致していることを要する。レースの見所は、ピッチをいくらに定めるか、スタートダッシュ、回頭、ラストスパートの巧拙、風浪、海潮流の対策、利用の巧拙等特に注目すべき点であるが、その他にクルーの一条乱れぬ一挙手一投足に他の競技には見られぬよさがある。

カッターレースは実技を兼ねた、最も豪快な海のスポーツである。

なお、前回までの主な順位は次の如し、

第1回大会（昭32、於東京） ① 東京水産大 ② 東京商船大 ③ 神戸商船大 ④ 防衛大

第2回大会（ 33、於神戸） ① 東京水産大 ② 農林省水産講習所 ③ 東京商船大 ④ 防衛大

第3回大会（ 34、於呉 ） ① 農林省水産講習所 ② 海上保安大 ③ 東京水産大 ④ 防衛大

IINO LINES

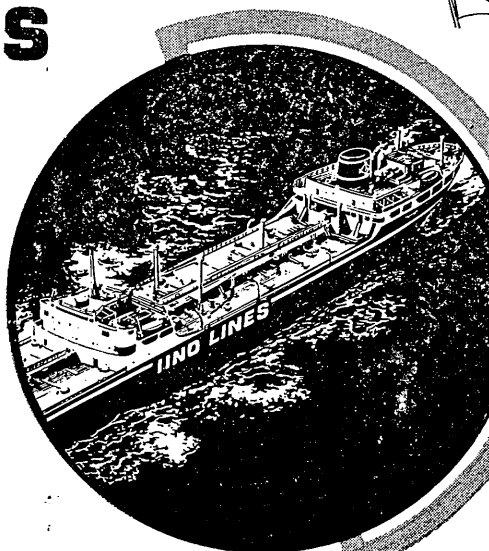
定期航路

東カナダ、ニューヨークー日本
西オーストラリアー日本
インド、パキスタンー日本
バンコックー日本

飯野海運

取締役社長 俣野健輔

本社：東京都千代田区丸の内3ノ6





AKASHI

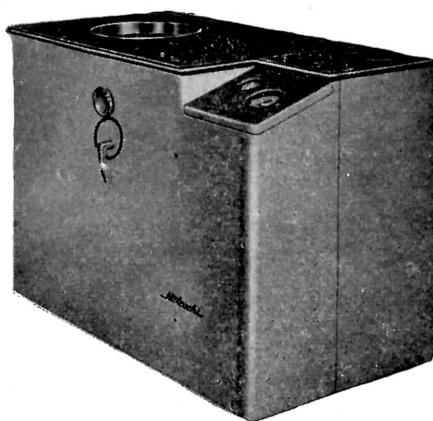
電子顕微鏡 動釣合試験機
硬 度 計 動電型加振装置
振 動 計 そ の 他

株式会社 明石製作所

本 社 東京都千代田区丸の内・仲 8 号館
工 場 東京都品川区東品川 5 丁目 1 番地
大阪出張所 大阪府北区絹笠町・堂ビル第 611 号

電話 (271) 7 8 7 1 ~ 5
電話 (491) 8 1 4 6 ~ 9
電話 (36) 3 8 1 5 (直通)

日立 分離用 超遠心機



日立理化学機器

40P 形 日立分離用超遠心機

フラ装置置機置
グラメ定装算装
マカ測射速計定
ロ度線照加計測
ク速射⁶⁰子波
ガ高放^{Co}粒電^μ
鏡計計機計計
微析光度計
顯分光度計
頭分光度計
量共遠光電
氣記分光電
電質磁自超分光

日立産業

東京 大阪 名古屋 九州 広島 仙台 札幌

天 候. 風 向. 風 速. 波 浪.

時 刻	種 目	コ ー ス	校	名	着 順	タ イ ム
0 9. 0 0	開 会 式					
1 0. 0 0	予選第1レース	1	三 重 大 学	52	② ²⁸	13 ^m -22.5
		2	水 産 講 習 所	53	① ³²	13 ^m -12.2
		3	長 崎 大 学	44	③ ³²	14 ^m -02.50
		4	日 本 大 学	12	④ ²⁶	15 ^m -58.4
1 0. 3 5	予選第2レース	1	梅上保安大学校	52	① ²⁹	13 ^m -04.5
		2	陽 紅 大 学 校	53	② ²⁹	13 ^m -15.1
		3	鹿 兒 島 大 学	124③	③ ²¹	14 ^m -00.8
1 1. 1 0	予選第3レース	1	東京商船大学	53	③ ²⁸	14 ^m -01.7
		2	神戸商船大学	1252	① ³¹	13 ^m -02.2
		3	水 産 大 学	44	② ²⁸	13 ^m -15.9
1 1. 3 0~1 3. 0 0 昼 食 休 憩						
1 3. 3 0	敗者復活レース					
1 4. 1 0	順位決定レース					
1 5. 1 5	決 勝 レ ー ス					
1 5. 4 5	閉 会 式					

MITSUBISHI ZOSEN

(Mitsubishi Shipbuilding & Engineering Co., Ltd.)



営業品目

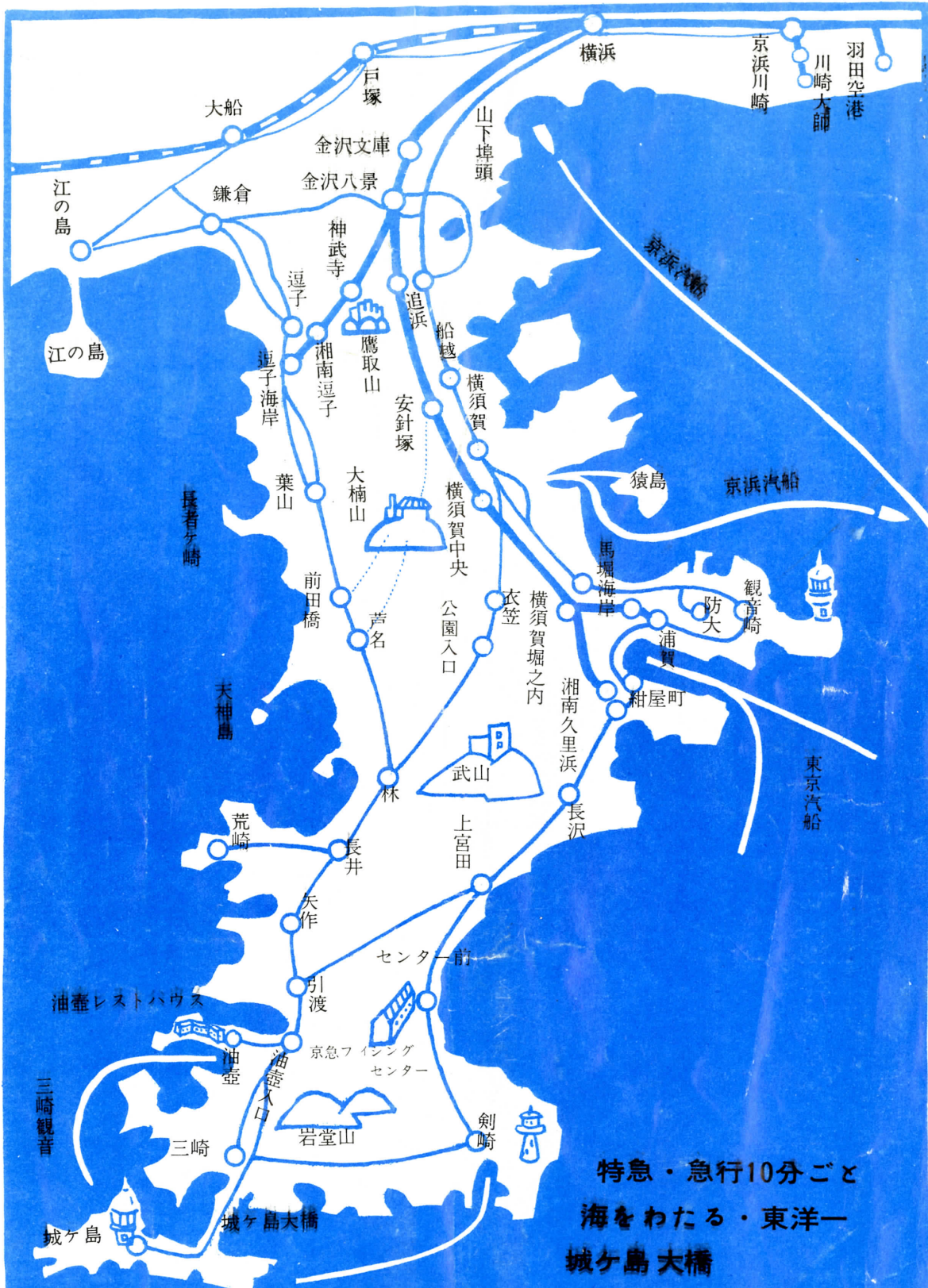
艦艇・高速艇・客船・貨客船・油槽船
漁船其の他一切の船舶新造改修

化学・鉱山・製鉄・繊維・工作・鉄構
兵器等産業機械諸設備

三菱造船株式会社

本社 東京都千代田区丸の内2の4 (三菱本館)
電話 代表 (281) 5111・3111・0331
営業所 大阪・神戸・福岡・札幌・香港
New York・Duesseldorf
工場 長崎・下関・広島





特急・急行10分ごと
海をわたる・東洋一
城ヶ島大橋

三浦半島周遊・城ヶ島・城ヶ島回遊券
500円 (遊覧船共通用2回)

京浜急行